

「フィリピンの子どもたちに進学資金を援助する活動に取り組んでいる団体「パラサイヨ」(目黒区)が4月20日、川崎市の多摩川緑地でチャリティーマラソン大会「パラカップ」を開く。参加費から得た収益を孤児院の贈り物を目的に今年で4回目の開催。メンバーは「自分たちが楽しみ、みんなが喜ぶのがうれし」と話している。(中野真也)

## 参加費収益フィリピンへ

パラサイヨとはタガログ語で、英語の「For You」にあたる意味。00年8月、大学生約30人が英語の勉強をかねてフィリピンの孤児院を訪れたのをきっかけに結成された。

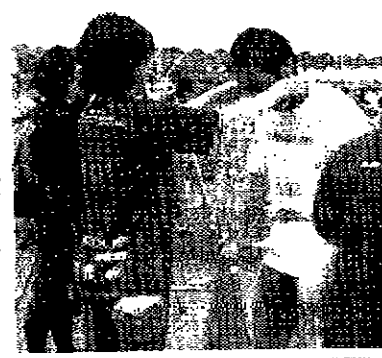
参加者は現地の子どもたちから熱烈な歓迎を受け、その純粋さに心を動かされた。「来年はお金を集めて行こう」と決め、帰国後、「コーチング」のセミナーや料理教室など、自分の得意分野をテーマにした各種のイベントを開いて参加費を集め、その一部を現地で援助資金にあてるようになった。

代表で不動産会社に勤める中西祐さん(31)は「目黒区在住」によると、昨年8月には500万円を贈呈。1月に目黒区で開いた「スベルロンサート」には約4500人が集まり、約100万円の収益を上げた。

孤児院の子どもたちは、経済的な理由で家族と離ればなれになっているケースが多い。フィリピンは学歴社会で、大学に進学しないと安定した職業に就けないとも言われている。このため、日本円にして1人あたり年間約5万円の進学費用を

# 走って歩いて進学支援

### 4月20日 多摩川緑地マラソン「パラカップ」



●フィリピンの子どもたちに贈られる代表の中西祐さん(31)は05年8月、マニラ近郊の孤児院で●昨年はフィリピンの子どもたちが作ったメダルが完走者全員に贈られた川崎市の多摩川緑地で、いずれも中西さん提供

中西さんはフィリピンで子どもたちと「お金を集めて持つていくから、君たちも勉強をがんばって」と声をかけている。年に1回、「お土産をもつて、友だちに会いに行く」感覚だという。

昨年5月のパラカップには、約2千人の完走者全員にフィリピンの子どもたちが作ったメダルが配られた。

今回の大会はハーフマラソンと10キロ、10キロウォークの3種目。多摩川沿いのサイクリングコースの川崎市側を多摩川大橋から丸子橋、新三子橋と回る。

参加費は一般1000円、中高生とボランティアスタッフが2千円。午前10時半開始。詳細や申し込みはホームページ(<http://www.parasayo.info/>)を

「引きこもり」 活動、困窮、体、活、一、会、を、る、?、う、力、雨、若、

都は 若者